

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500113		
法人名	社会福祉法人 千香会		
事業所名	グループホームぼらん		
所在地	気仙沼市東新城1丁目3番地3		
自己評価作成日	令和 3年 1月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 2月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内に姉妹法人の小規模多機能型居宅介護施設とグループホームが隣接している。普段から行き来しており交流を深めている。災害時においても協力・連携できている。グループホームにおいては、各自役割を持っていただき食事の準備・後片付け、洗濯物干しやたたみ方等職員と共にやっている。アットホームな雰囲気皆過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは気仙沼中央インターから車で約10分、気仙沼湾に注ぐ大川の堤防沿いにある。大川源流で水源地の室根町矢越山では「森は海の恋人植樹祭」が行われる。ホーム周辺は住宅が点在する商業地域となっている。コロナ禍の影響で地域住民の避難訓練への参加目標は達成に至っていないが、同法人の介護施設が隣接していることで、災害時等の協力体制が出来ている。ホームは気仙沼市ハザードマップで最大1.0mの浸水区域になっており、市の助言で洪水時の避難場所は高台にある法人のデイサービス施設としている。職員は本人や家族の要望、意思を尊重し得意なことや好きなことが出来る生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度やまもりーぶを活用しながら生活する利用者様もおり、貴重な事例となっている。勉強会を行い、職員全員が理解出来る様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書と重要事項説明書を説明し、理解していただける様心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申し立て機関を明記している。	家族からの要望や意見は来訪時に聞いている。コロナ禍での面会はウッドデッキ側の窓越しの面会や電話で会話をしている。「字を書かせて欲しい」「体操させて欲しい」等、身体機能維持の要望が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングでは管理者を始め全職員が意見交換を行っている。	毎月、職員ミーティングの時や何時でも職員の要望を聞ける環境である。資格試験の休暇等は、他の職員の協力を得てシフトの調整をしている。コロナ感染予防のための物品購入の提案も反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	妊娠中や生理痛等様々な症状や状態で勤務時間や内容に制限がある職員に対してはその都度話し合いを設け、意欲がある職員に対しては支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格受験料の補助を行っている。コロナの為、法人外の研修へは一般職員は派遣出来ない。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及びケアマネージャーは気仙沼市介護サービス法人連絡協議会主催の研修会へ参加し、他事業所との情報交換も行っている。	法人内で職員のヘルプや異動等で交流がある。介護保険施設従事者研修会等で、他施設の職員との交流や情報交換がある。管理者の元勤務施設の職員との情報交換や意見交換の機会を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安を感じない様な声がけや話しやすい雰囲気作りに努めている。利用者相談の段階から要望や心配事を把握し、安心してサービスを受けられるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項同様、来訪時や連絡時には様子を伝えながら不安に感じている事を聞き、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で聞き取りを行い、本人・家族が求める支援を把握し、適切に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ち生活していただく。日々の関わりからその方の好む活動や得意な事を聞き一緒に作業をしていただく。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や連絡時には近況報告を行い、常にホームとの繋がりを感じていただくよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により、面会制限をしているが窓越しであったり、電話を活用している。	家族の協力で正月や盆には、自宅に戻り、家族と過ごしたり、墓参り等をして外泊することもあった。大島や魚市場、気仙沼港が馴染みになっている方が多い。家族が同行して入居前の馴染みの美容院に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性等情報共有を行い、利用者同士コミュニケーションがとれる様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った事があれば、いつでも立ち寄っていただける様声かけを行っている。		
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常の会話の中からも思いをくみ取り、気持ちを伝えられない方でも、本人の立場になり考えたり、家族と協力し把握に努めている。	職員は入居者と1対1の寛いでいる時に思いや要望を聞いている。好きな甘い食べ物などについて要望が多い。入浴時の同性介助希望の入居者や歌や詩吟、塗り絵が好きで続けている方の要望に応じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から生活歴や情報を聞き取り、入居後でも出来る限り以前と同じ生活が出来る様環境作りを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れに沿った生活記録と排泄表を活用し1人1人の過ごし方が把握出来る様努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気づきを記録し、その事実をもとに課題解決にむけた話し合いを毎月のミーティングで行っている。	毎月、介護計画について本人の希望や家族の意見を聞いて計画の見直しを行っている。継続プランの入居者が多い。自宅にいた時の趣味の詩吟や散歩や食事の準備、訪問マッサージ等を計画書に入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・受診記録・排泄表を活用し情報を共有している。生活記録には計画書通り実践出来ているかの確認・振り返り・見直し出来る様になっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の身体や状況に合わせて外出の送迎や付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響があり、ボランティアの受け入れは現在出来ていない。訪問理容については、地域の状況を見ながら実施している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診しているかかりつけ医を継続している。家族が同行する場合も状態変化や様子を適格に伝えられる様、日々の記録を渡している	全員が入居前からの、かかりつけ医を受診している。かかりつけ医の受診は家族が同行している。バイタル表や個人の情報を記録した「受診記録」で医師や家族と情報を共有している。往診で対応の方もいた。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を観察・記録し気になる事や状態変化がみられる場合はかかりつけの病院に情報提供行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、主治医・看護師・地域連携室と情報共有を行い状態の把握やリハビリの状態を確認している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、看取りの指針をお渡しし要望があればいつでも話し合いの場を設ける事を伝えている。	入居時に「看取りに関する指針」と「看取り介護実施の定義」で看取りが出来ることを説明し、家族の同意を得ている。重度化の場合は段階的にかかりつけ医や家族と話し合い対応を確認している。職員は看取りケアについて勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、特変時の対応をマニュアルとして整備し定期的に緊急時の初期対応を勉強会で確認、共有している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響もあり、地域には現在案内のみ配布している。今後、反省点として取り組んでいきたい。	夜間想定を含む年2回の避難訓練と消火器の使用方法を体験している。反省点として避難済みの居室の「名札を裏返す」は居室の近くに行かないと確認出来ないため、「廊下に枕を置く」などを検討するとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる事は声のトーンや場所に合わせた声かけや言葉を選ぶ様気をつけている。	入居者は全員女性であることで、着替えや化粧中は、場所や状況を良く見極めた声掛けに注意している。排泄時のドアの開け閉めや見守りが入居者の視界に入らないようにプライバシーの確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の支援において、本人の意思や希望を伺っている。自己決定が難しい方については、選択していただける様配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分、趣味に合わせて1人1人のペースに合わせて過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服、髪型等選択・判断していただくよう支援している。また、着替えの際一緒に選んでいただく等配慮している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事の際には、食べたいものをリクエストしていただいている。それぞれ役割分担をし食事の準備や後片付けを一緒にやっている。	献立と調理は専従の職員が担当している。法人の栄養士から栄養バランスについてアドバイスを受けている。入居者の要望で海鮮ちらし寿司やラーメンの出前等に対応している。外食は回転寿司に出かけていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を記録している。少ない場合には声がけし捕食を提供している。利用者様に応じて刻み食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声がけを行い歯磨きを行っている。利用者様によっては必要な支援(口腔ケア)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、それぞれの排泄パターンを把握するように努め、誘導や声かけの工夫によりトイレで排泄を出来る様支援している。	排泄パターンの把握と入居者毎のサインを見逃さないよう声掛けと誘導でトイレで排泄をしている。殆どの入居者が自立しており、日中はリハバンの方が1名で、夜間は声掛けや見守りでパッド交換の入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供したり、昼にヨーグルトを出す等排便を促している。便秘傾向の方は医師に相談。また、腹部マッサージを行い改善出来る様取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	本人の入りたい時間・タイミングに入れる様調整している。また、入浴剤を用いて温泉気分を味わっていただく支援も行っている。	週2回の入浴をしている。入浴拒否の入居者はいないが、入居者が全員女性で女性職員が1人であることで、同性介助を好む入居者のためにシフト調整をしている。柚子湯や入浴剤で気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様それぞれの状態に合わせ休息をとっていただいている。暗くなる事に不安を抱く利用者については照明スタンドを準備する等工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録に医師からの指示や注意点を記録している。薬が変更になった際には連絡ノートへ記載し職員全員が気づけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や裁縫等、生活記録や好む活動を把握しながら支援を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、外出の機会は減ったが散歩や買い物は希望に応じて家族の協力を得ながら実施した。	例年は市民会館の花見や夏は盆踊り、気仙沼みなどまつり、室根山の紅葉狩りに出かけていた。コロナ禍の今はホーム周辺の散歩や買い物ドライブをしている。毎年、林檎の樹オーナー制度の林檎園で収穫を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な金額をお預かりし、基本的にはホームで預かり管理している。木坊子や外出時には自由に使う事が出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をもっている利用者様が数名おり、使い方がわからなくなった際には支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窗があり、自然な光が差し込み、適切な温度・湿度を保っている。	ホールはエアコンと加湿器で空調管理されている。ホールの一部が6畳ほどの和室となっている。ウッドデッキ側の掃き出し窓と和室の縦すべりだし窓、天窗から差し込む明かりで開放感がある。観葉植物や壁には額縁に入った絵や写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が同じテーブルやホールに設置しているソファにて会話を楽しまれている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切な人の写真やカレンダー等見やすい位置に掲示している方がいる。自宅から位牌を持ち込み手を合わせている利用者もいる。	エアコンとベッド、クローゼットが備え付けとなっている。入居者の使い慣れたタンスや衣装ケース、テレビ、冷蔵庫、位牌などが持ち込まれている。家族の写真や好きな芸能人のポスターなどが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーを使用している利用者様が操作しやすい様、テーブルの位置に配慮している。また、居室の名札やトイレ等の案内板は分かりやすいよう目線に合わせて設置している。		